

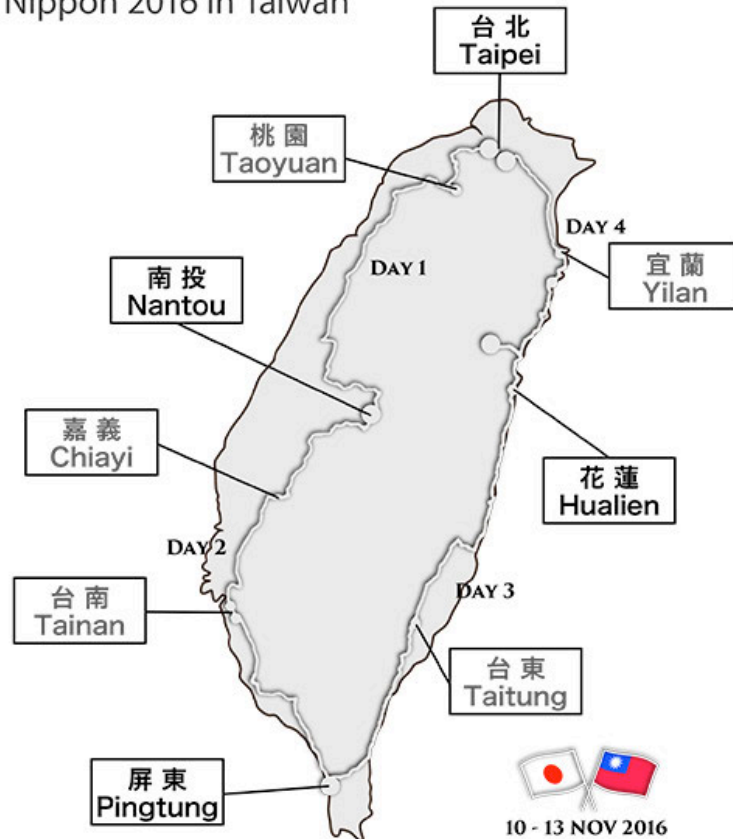
ラリーニッポン in 台湾 2016

《行動予定》

- 11月9日 AM5:30 出発 荷物受取後 AM12:00 成田空港着チェックイン
PM14:00 成田発(ターミナル1) BR197便 日本出発
PM17:50 桃園着 ホテルに移動し、打合せと準備、受付と荷物仕分け
- 11月10日 AM6:00 1日目準備～スタート 台北～桃園～南投
- 11月11日 AM6:00 2日目準備 南投～台南～屏東
- 11月12日 AM6:00 3日目準備 屏東～台東～花蓮
- 11月13日 AM6:00 4日目準備～ゴール 花蓮～宜蘭～台北
- 11月14日 AM8:50 桃園発(ターミナル2) BR198便 台湾出発
PM13:00 成田着(ターミナル1) 昼食後埼玉へ PM17:00 埼玉着、解散

《コース》

Rally Nippon 2016 in Taiwan



《前泊》

ラリー前日は埼玉で朝5:00に集合し、5:30に出発

成田空港へ向かう途中に現地へ持ち込む荷物を預かり、全員で手分けして飛行機へ運んだ。

桃園空港へ到着したのは夕方の18:00、そこから長距離バスのキップを購入して台北市内へ1時間かけて移動。ホテルへ着いた頃は真っ暗だったが、トラックへの荷物の積み込みを終えて、初日の最終確認のためホテルの会議室を利用してミーティングをラリー関係者全員で行った。

就寝前に関東工大チームでチームミーティングを行い初日へ向けて役割りなどを話し合った。

總統府

住所：台北市中正区重慶南路1段122号



總統の官邸、正式には「中華民國總統府」。日本統治時代に建築された最大の建築物として当時台湾総督府として機能していた。台湾総督府は日清戦争の結果清国から割譲された台湾を統治するために設置された日本の出先官庁。竣工は1919年。1949年から總統府として使われるようになる。中央には台湾初のエレベーターが設置された高さ60mの塔がそびえ立つ。1998年には国宝級古跡に指定されて一般公開される。

関東工大チームの初日、第1の仕事は、最も重要な所であるスタート「總統府」の担当をした。初日スタートはあいにくの雨となり残念だったが、見学や応援に来てくれた人も多く緊張感は高まった。

仕事内容

会場設置 : 最初他チームとの共同作業。とても重要な場所で失敗は許されない。各チームが役割を果たし、また、臨機応変に動く事になる。効率良く相手に物事を伝える、指示内容をしっかり理解するなど、事前準備とその場での判断力、コミュニケーション能力が問われる。
(荷物仕分け、テントなど設備配置、バナー設置)
※第三者目線で設置し、片付けの事も考えておく。



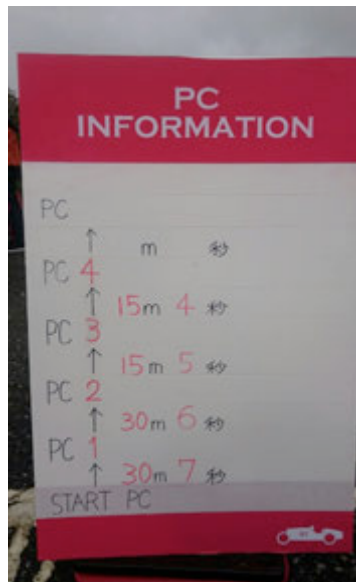
車検 : 車両が基準に適合しているかチェックをする。また、ドライバーのかたと直接話して調子を伺う。
(灯火類、ホーン、外観チェック、油脂&冷却水漏れ、全体的な調子など)

大会説明 : 大会説明と注意事項確認、今回は松本が代表した

車両誘導 : スタート後、会場内の誘導。車両により特徴があり、誘導に気を遣う。
(大・小、曲がりやすい・難い、視界が広い・狭い、右・左ハンドル、聞こえる・聞こえない等)

会場片付け : 全ての備品(バナー・テント・パイロンなど)を持ち帰る、忘れ物が無いかチェック、ごみが残っていないかチェック

PCインフォメーションは日本から届かなかった為、スタート会場当日朝に自作した。



總統府に到着 準備開始の風景

西湖渡假村^園



苗栗にある西湖渡假村は「恐竜ワールド」「十二支の彫刻花園」などといったテーマの異なるエリアが数多くあり、「アニメエリア」ではオズ魔法使い、ペリーヌ物語などの懐かしいアニメに会える。西湖の側では、山紫水明の景観を眺められ、子供から大人まで楽しめるテーマパーク。

初日第2の仕事は競技計測、会場は「西湖渡假村」というレジャー施設の駐車場を貸し切りに行われた。

仕事内容

競技コース設営：現場には駐車車両が無い確認する為、2～1時間半前に到着。

パイロンやトラ棒を使用して駐車場にコースを作る。

計測をしながらコース上にゴミや石など無いかチェックをして、設営開始。

コースは大型の旋回半径が大きい旧型車にも対応するため広く作り、また、視界の悪い車両や左右ハンドルの違いでも分かりやすい作りにする。

バナーを見栄えの良い場所、案内として機能する場所に設置する。

誘導：参加車両到着後は、競技待機場所へすみやかに誘導をする、多種多様な車両に配慮してリアクションやからだ全体を使い、大きな声で誘導を行う。（練習は出発前に学校で行った）

バックや切り替えしがクラシックカーは大変な事が多いため、少なくなる様に工夫しなければならない。

競技：各自配置（スタート、ゴール、コース管理、待機場所誘導、計測機器取扱い）に付いて競技を開始する。

競技中の各配置の仕事内容

※競技中は全員が各担当箇所と、ルールに通じられる様、また、コース上に異変が無いか監視する。

- ・スタート担当者：スタートラインまでの誘導、コースの案内、競技開始の合図
- ・ゴール：ゴール側から他車両が入らない様に監視、計測ミスが起きた時車両を停めて Re スタートの案内、車両に異常が見られた場合ドライバーに伝える
- ・コース管理：コースに異常が無いか全体を確認。（計測用ラインスイッチの設置ズレ、パイロンなどの接触でズレが無いか、落下物の確認）
- ・待機場所誘導：到着車両を停車位置へ誘導、到着順の管理、コースの説明、トイレや今後の予定の案内
- ・計測機器取扱い：CT2000 を使用して計測、PC を使いタイムのチェック、通過車両のチェック

撤収：全車両が通過した事をチェックして、会場の撤収を行う。

機材の片付け、忘れ物&落とし物のチェック、ゴミ等が残っていないか確認

競技終了後に計測結果を集計して、運営本部へメールで送信する。



檜意森活村

住所：嘉義市東區林森東路1號

樹齢 1000 年を超える台湾ヒノキ（紅檜）が自生する阿里山の自生林は、日本統治時代 1900 年日本人に発見され、1904 年から林学博士の河合琴山が調査を開始しました。その価値の高さが認められ、台湾ヒノキは日本へ輸出し、靖国神社の神門や樞原神宮の神門と外拝殿、東大寺大仏殿の垂木など、日本国内の多くの神社仏閣に阿里山のヒノキが使用されました。当時の阿里山林務局の宿舎 28 棟を 4 年掛けて再現し、台湾で最大の日式建築区として新しい観光スポットが 2012 年に完成しました。



2 日目、第 1 の仕事は競技計測、会場は「檜意森活村」（ヒノキ村）の通路をコースとして使用した。

- ・ 仕事内容は、前日の競技計測と同じだが駐車場では無く、ヒノキ村内の通路で行ったので、通行者や見学者への案内や誘導が必要になり困難を極めた。関東工大チーム以外にも 2 チームがここを担当しており、担当者全員の努力とエントラント様のご協力（この時は色々と皆様にご助けいただきました。）により、イベントはうまく軌道に乗り、ギャラリーの皆さんには好評だったようだ。
- ・ 競技終了後は、次ポイントへの移動がギリギリなため、チームは 2 つに分かれて行動。
- ・ 次ポイント早着&設営の班とヒノキ村競技会場の片付け班に分かれた。

Family Mart（スタンプ・ポイント）



2 日目、第 2 の仕事は「ファミリーマートでのスタンプ」（チェック・ポイント）

仕事内容：このファミリーマートが通過車両のチェック・ポイントになり、立ち寄った参加車両のスタンプ・シートに通過した証拠になるスタンプを押す。※仕事風景は動画に有ります

誘導：安全に車両が立ち寄れる様に、誘導を行い、ギャラリーの人々にも協力を仰ぐ。

会場：走行車両から停車位置が分かり易い様に、車両目線でバナーを設置し確認する。

準備：事故の無い様に現場の協力を仰ぎ、また、会場やギャラリーに感謝して失礼の無い様に行動する。

小旗を配るなど会場の雰囲気盛り上げ、現地の方たちやエントラントに楽しんで頂ける環境を整える。

スタンプ：エントラントからシートを預かり押印し、この際、受け取る時の態度や言葉遣いに注意する。

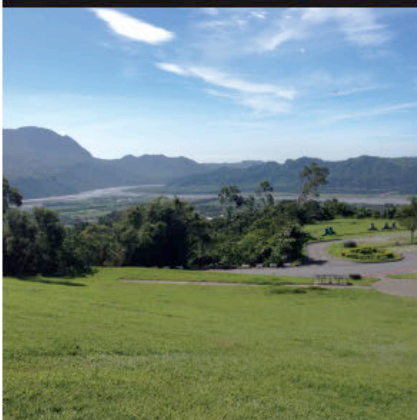
また、お疲れ様でしたなどの声を掛けをして、エントラントや車両の状態なども伺えるとより良い。トイレの案内、給油の案内もこの時行う。

- ・交差点直後の片側 3 車線+路肩のある大きな国道沿い。レーン・チェンジが鍵となるチェック・ポイントで、参加車両の誘導に注意が必要だった為、バナーを手旗にして呼び込みを行った。
- ・早着班は参加車両到着予定の 1 時間前に現場入りして、設営を開始。
- ・見込みより現地の見学者が多く、駐車場内の車両出入りが不可能と判断し、路肩付近にチェック・ポイントを作り直し、参加車両を迎え入れた。
- ・現地の台湾警察も応援に駆け付けてきて、先導車になったりしてもらった。
- ・2 日目は渋滞・車両トラブル・コースから外れた車両などが有り、到着予定時刻を大幅に遅れて大会が進んだため、準備から撤収まで 6 時間この場所で仕事をする事となり大変ハードな内容となったが、ミス無く仕事も進み、全員がやり切った気持ちでいっぱいだった。

《Day3》

鹿野高台

住所：台東縣鹿野鄉永安村高台路 42 巷 145 號



鹿野高台は、お茶の産地として有名な場所でしたが、近年様々な観光施設が整備され、台東でも有数の複合観光スポットとなっています。高台の展望台からは、眼下に日本人移民村の“龍田村”が一望できます。線を引いたようにまっすぐな、碁盤の目の町並みが特徴的。鹿野高台の地形を生かしてパラグライダーやハングライダーなども人気です。毎年開催される“気球フェスティバル”は世界中から熱気球愛好家が集まります。

3 日目、第 1 の仕事は競技計測、会場は「鹿野高台」で駐車スペースと通路を利用してコースを作った。

- ・仕事内容はこれまでの計測競技と同じ。
- ・会場は同時にランチ会場になっており、競技後に参加車両は芝生スペースへ駐車する。

その際、通路には一般車や大型バスが通るので、交通管理がとても重要。トランシーバーを使いタイミングを合わせて誘導を行った。



- ・大きな会場なので準備が一番大変だったが、事前に確認して用意をしていたのでミス無く進められた。また、この会場は駐車スペースが多くあり、現場の臨機応変な判断などによりスムーズに展開できた。

- ・競技も滞りなく進み、関東工大チームは会場の撤収まで力を合わせて行った。

- ・終了後は他チームのバックアップへ向かった。



自由廣場・国立台湾民主紀念館（中正紀念堂）

国立台湾民主紀念館（中正紀念堂）は1980年、中華民国初代總統 蔣介石の顕彰を目的に建てられた施設。紀念堂正面の階段は蔣介石が亡くなった年齢の数と同じ89段になる。八角形の屋根は北京天壇を模倣して作られた。八角形の八には「忠、孝、仁、愛、信、義、和、平」の意味を持つ。西側にある大きなもんが自由廣場門である。白い壁の外観に青い瓦屋根、5つのアーチからなる門の高さは30メートル。門の正面に書かれた「自由廣場」は中正紀念堂から国立台湾民主紀念館に改名された際に「大中至正」から「自由廣場」に書き替えられた。



4日目、最終日はゴールの「自由広場」を担当した。

自由広場は単なるゴールでは無く、ゴール手前で計測競技が行われ、関東工大チームは計測とゴール会場の設定を行った。

※ゴールの様とゴール後の車両展示は動画にあります。

仕事内容はこれまでの競技計測と同じだが、ゴール会場のギャラリーは相当な数になると予想できたので、コース作りに配慮し、隙間無く、トラ棒やテープを張り対処した。

また、競技中に時間の有る場合は、渡り通路を予定箇所以外にも作り横断出来る様に現場で変更した。

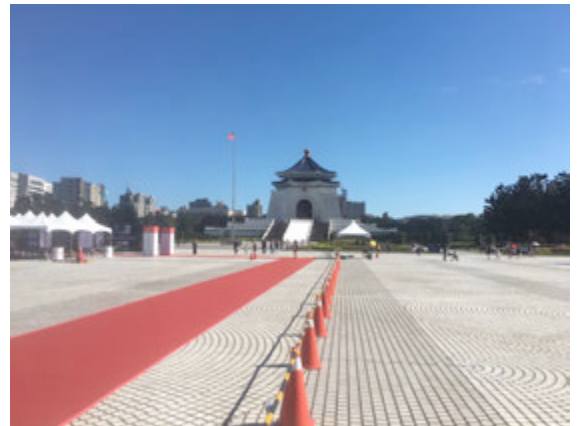
計測区間とゴールの設定が完了した後は、開始前に全員で手分けして宣伝のパンフレット・小旗・ピンバッジなどをギャラリーの皆さんに配り、場を盛り上げた。

競技が終了して片付けが終った頃、辺りは真っ暗でファイナルパーティーの参加を見送り、台湾へ持ち込んだ荷物の数確認を行った。夜は打ち上げをスタッフと行い、焼き肉と海鮮を頂きました。

《最終日》

帰りの飛行機が次の日の桃園空港 8:50 発なので、ホテルを 5:30 に出発し長距離バスで空港へ。

13:00 に成田空港到着、埼玉到着は夕方だった。



ゴール車両の風景